

令和7年度 第1回 八代市立図書館協議会 会議録

日 時：令和7年6月26日（木）午後1時30分

場 所：八代市立図書館 大集会室

出席委員：宮嶋委員、桑原（理）委員、藤澤委員、森下委員、徳田委員、内木委員、橋野委員、
桐委員、小原委員

欠席委員：桑原（伸）委員

事務局：中教育長、田中教育部長、鋤田教育部次長、泉課長、中川係長、永吉参事、
吉野館長、田口統括責任者、本田せんちょう分館長、木場かがみ分館長

欠 席：下津教育部次長、

公開状況：公開

傍 聴 者：0名

- 1, 開会
- 2, 委嘱状交付
- 3, 教育委員会挨拶
- 4, 自己紹介
- 5, 会長挨拶
- 6, 議事

【1】令和6年度の取組について

事務局：運営方針にある「郷土を拓く人を育む図書館」「市民のニーズに応える図書館」「八代の文化を支える図書館」「市民協働による図書館」に沿って運営した。

(報告1)図書館運営方針に伴う令和6年度の取組

1.郷土を拓く人を育む図書館

(1) 課題解決に取り組む市民の読書活動の推進

- ・第8回八代市立図書館を使った調べる学習コンクール（令和6年8月1日～10月1日）を開催した。八代市立図書館を活用し、子どもたちが自ら学び考え、課題を解決する力や生きる力を育むことを目的に実施。応募作品39作。最優秀賞1名、優秀賞3名、佳作9組11名が受賞。特に優れた2作品を「全国図書館を使った調べる学習コンクール」へ推薦。2作品とも佳作を受賞。また、表彰式を令和7年2月22日としょかんマルシェの中で開催した。
- ・図書館講座「調べる学習おたすけ講座」（令和6年7月27日、8月3日、10日）を開催した。調べる学習の目的や、課題解決、集めた情報のまとめ方を伝えた。参加者31名。
「図書館を使った調べる学習コンクール」の地域コンクール及び全国版に出展した。

(2) 情報化社会の進展に合った情報提供の充実

- ・課題解決に取り組む利用者の調べる効率を上げるため、最新情報が日々更新される商用データベースを導入（令和2年4月～）。令和7年3月31日現在「JRS 経営情報サービス」「デジタル伊能図」「熊本日日新聞」「レファコレ 児童文学ヤングアダルトサービス」を運用。
- ・図書館講座「図書館の便利な使い方」を開催した。
（本館、かがみ：令和6年4月27日 せんちょう：令和6年4月29日）
OPAC、オンラインデータベース、電子図書館の利用案内。本館22名、せんちょう20名、かがみ12名の参加。

(3) 子どもの読書活動の推進

- ・出張おはなし会を随時開催し、学校、幼稚園、保育園、子育て支援センターなどへ出張し、おはなし会を行った。わくわくプラザ（子育て支援センター）、文政保育園（親子子育て支援センター）、しらぬい保育園（北部子育て支援センター）、千丁コミュニティーセンター（サマースクール）など。
- ・ブックスタート事業を7ヶ月健診時に行い、絵本の配布と読み聞かせについて案内した。また、ボランティアをされている方や興味のある方を対象に、オンラインにて「ブックスタートの全国研修会」を行った。（令和7年3月22日）
- ・子どもたちの読書活動の推進のため、希望する学校や子育て支援センター等に団体貸出や配本を行った。高田小学校、こどもプラザわくわく、こどもプラザすくすく、八代レディスクリニック、千丁小学校、有佐小学校など。

2.市民のニーズに応える図書館

(1) ユニバーサルデザインの視点を踏まえた環境整備やアクセシブルな資料の充実

- ・読書支援サービスを実施し、点字図書、録音図書の郵送サービスを行った。また、電子図書館でもデージー図書（録音図書）の貸出を行った。「やさしい利用案内」では、ピクトグラム（絵記号）を多用し、図書館の利用方法や決まり事をまとめた冊子で利用案内を行い、障がいのある方や母国が外国語の方、子どもへの利用案内に努めた。
- ・読書支援サービスをさらに充実させるため「りんごの棚」を設置した。（令和6年9月～）大活字本、点字図書、LLブック、布の絵本などのアクセシブルな資料の他、読書を支援するための道具（リーディングトラッカー）等も一緒に展示した。講座でもリーディングトラッカー作りを開催し、幅広い年代の方に楽しんでいただけた。
- ・バリアフリー上映会「じんじん」（令和7年2月9日）を開催した。聴覚や視覚に障がいのある方にバリアフリー映画を知ってもらい、楽しんでもらう目的で行った。参加者数24名（一般18名、バリアフリー席3名、介助者3名）。

(2) 外国語資料の充実

- ・読み聞かせボランティアや外国語指導助手（ALT）の先生による英語のおはなし会を本館とせんちょう図書館にて月に1回開催した。
- ・外国語資料の充実を図った。英語以外の外国語資料として、ベトナム語、フィリピン語、中国語、韓国語、イタリア語、スウェーデン語、ロシア語、ドイツ語、オランダ語、フランス語、エスペラント語を購入した。
- ・本館の児童書架に、多言語コーナーを設置した。（令和6年7月～）
八代市に住民登録されている外国人の国籍として多いフィリピン語、ベトナム語、中国語などで書かれている図書を並べてサービスの充実を図った。また、やさしい日本語に関する図書も並べた。

(3) 地域における読書活動の充実

- ・移動図書館の運営を行った。図書館への来館が困難な利用者に図書を提供しやすくするため、利用者の近くの拠点まで移動図書館車わくわく号で移動し、図書の貸出やレファレンス等の図書館サービスを提供した。（日数：168日 貸出冊数：12,157冊 利用者：2,807人 14コース 36ステーション）
令和6年4月より新車両「わくわく号」にて運行中。積載冊数：約1,300冊

(4) 定住自立圏協定による広域連携サービスの実施

- ・氷川町及び芦北町在住の方に利用カードの登録、貸出を継続している。
氷川町在住者
登録者数（累計）：1,254名 貸出者数（延べ）：1,891名（令和7年3月31日現在）
芦北町在住者
登録者数（累計）：271名 貸出者数（延べ）：348名（令和7年3月31日現在）

(5) 県立図書館をはじめとした他自治体図書館との連携

- ・県市等連携事業にて、県立図書館の資料を、利用者が居住する近隣の連携した市町村立図書館で貸出・返却ができるサービスを行った。資料の郵送に係る負担金の割合は、県が3/4、市町村が1/4。（借受冊数 本館：97冊 せんちょう：15冊 かがみ：11冊）
- ・相互貸借にて、図書館に所蔵していない資料で、購入できない資料を他館から借り受け、利用者へ提供するサービスを行った。（借受冊数：212冊 貸出冊数：73冊）
- ・遠隔地返却にて、県立図書館の図書を返却のみ受け付けるサービスを行った。

(6) 図書館の施設整備

- ・図書館維持管理事業として、図書館を生涯学習の中核施設及び地域の情報センターとして、安全で快適に利用できるように老朽化した施設及び改修を計画的に行った。

（本館）

- ・1階開架東側天井雨漏り修繕
- ・1階男子トイレ洗面台配管修繕
- ・1階エレベーター前煙感知器取替
- ・南側掲示板サッシの袴、レール、鍵の取替修繕
- ・中3階閉架書庫ドアクローザー取替
- ・2階機械室熱交換器冷温水管の圧力逃がし弁交換
- ・1階開架パソコンコーナーコンセントカバー取替

- ・南側駐輪場の桜の樹、腐れの為伐採

(せんちょう)

- ・開架小説コーナー窓側、カーペット床から水の侵入部分の補修工事

- ・車椅子タイヤバルブ取替

(かがみ)

- ・コピー機トレイ交換

(7) 指定管理者による運営

- ・引き続き、民間のノウハウを活用し、多くの市民に親しみをもって利用してもらえるように指定管理者と連携を図りながら図書館の充実に取り組むため、指定管理者の更新手続きを行った。(指定管理者期間：令和2年度～令和6年度 5年間)

3.八代の文化を支える図書館

(1) 文化創造機会の提供

- ・図書館講座を実施した。(本館：年18回 せんちょう：年6回 かがみ：年7回)
幅広い世代を対象に、歴史講座、プログラミング講座、調べる学習おたすけ講座などを行った。「ロボットこくりを動かしてみよう」「お天気と防災」「生きる力をはぐくむ昔ばなし」「野菜づくりのコツと裏技」「万葉の七草から当時の環境を考えてみよう」など
参加人数 463人。

(2) 各館ごとの特色あるサービスの提供

- ・本館
「大人の調べる学習アルバム自分史作り」「松井家のお宝『道中風景絵巻』を訪ねる」「子ども図書館ツアー 探検！八代市立図書館」他を行った。各館の利用者層を鑑み、図書館講座を定期的に行うほか、企画展示や特設棚を設置した。
- ・せんちょう図書館
かがくあそび講座「とぶふしぎ」にて、かがくあそびの本の読み聞かせと「紙コップひこうき」を製作。その後、紙飛行機の飛び方の実験を行った。かがく絵本コーナーも設置した。
- ・かがみ図書館
「かがみマンガWeek」を開催した。(令和6年11月1日～11月7日)
鏡中学校美術部とのコラボ企画にて「推しキャライラスト」の募集と展示、学習マンガ「読んで、学んで。マンガ展」の展示、マンガ年表の展示、新刊マンガ本約500冊の貸出などを行った。図書館講座として「推しキャラクターのキーホルダーをつくろう」も開催した。

4.市民協働による図書館

(1) 学校との連携強化、協働による事業の充実

- ・学校配本のための選書、貸出した図書の配本や、学校より要望があった図書の貸出を行った。
- ・学校図書館支援員研修会にて「子どもが本に興味をもつような図書館運営について」の講話とアニメーションの実演を行った(令和6年4月18日) 学校図書館支援員の方25名参加。

(2) 地域施設・ボランティアとの連携・協働による読書推進

- ・八代市立博物館出張講座「学芸員のこだわり八代学 in 八代市立図書館」を行った。
(令和6年7月～12月 毎月1回、計6回)

博物館の改修工事に伴う臨時休館中、市民への教育普及活動を継続するため、博物館学芸員による出張講座を八代市立図書館で開催。各回定員40名。毎回、申込開始からすぐに定員に達している。2025年度は共催事業として引き続き開催予定。

- ・がん検診受診率50%達成に向けた集中キャンペーン月間イベントを、熊本労災病院や八代市保健センターなどとの共催で開催した。(令和6年10月5日)がん検診に関する資料・パネル展示、がんリスクチェックやがんクイズ、メッセージ寄せ書きコーナー、ぬりえコンテストを行い、がん検診のPRを行った。

(3) 自主事業への市民参加

- ・図書館まつりを開催した。(令和6年4月23日～5月12日、10月24日～11月10日)
春のこども読書週間や秋の読書週間に合わせて、図書館講座、おはなし会スペシャル、スタンプラリー、映画会、ブックリサイクルなどを行った。

- ・としょかんマルシェを開催した。(令和7年2月22日)
第8回八代市立図書館を使った調べる学習コンクールの表彰式、読書ボランティア養成講座、おはなし会、昔あそび広場、リーディングトラッカー作り、電子図書館体験、トークショーの他、道の駅坂本「さかもと館」、コーヒー店、山本製菓、古本市、キッチンカー出店を行った。来場者1,345名。

(4) 図書館運営への市民参加

- ・運営に関し諮問に応じるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、意見を述べる八代市立図書館協議会を開催。(令和6年11月25日)委員任期：令和6年10月～令和8年9月
- ・利用者アンケートを実施した。(令和6年8月～9月)回答者数793件。

八代市立図書館のサービスに対する利用者の満足度や考え方・ニーズを把握し、今後のサービス改善につなげ、意見を聞くために実施。令和3年度からインターネットでのアンケート調査も行っている。

利用状況について

1.図書館利用状況

令和5年度と比べて入館者数は106.4%と増加しているが、貸出人数は98.7%、貸出冊数は97.8%と減少している。入館者数増加の理由は2階のロビーを様々な団体に提供して行っている展示の影響が挙げられる。また、学習コーナーの利用も多い。入館して図書館を利用していただく方に、図書も借りていただけるように取り組みを考えていきたい。

2.電子図書館の利用状況

令和4年2月八代市児童生徒のタブレット端末利用による電子図書館サービスが開始したため、その年の利用数が一番多かった。その後、年々利用数は減っている。このことは図書館としても課題である。電子図書館普及のために取り組みを考えていきたい。

- ・2025年度は、児童図書読み放題サービスとして「KADOKAWA まんが科学パック」「KADOKAWA YA パック」「角川つばさ文庫人気シリーズ朝読パック」「集英社みらい文庫ノベライズパック」「集英社ジャンプジェイブックスパック」「フレーベル館名作えほんパック」「岩崎書店おはなし・学びパック」計7セット269点を購入した。アクセス制限がないため、何人でも同時に読むことができる。
- ・「TRC-DL マガジン」（電子雑誌読み放題サービス）では、281タイトル所蔵している。（令和7年5月末現在）
- ・データベース「デジタル伊能図」が閲覧可能。
- ・特集（展示）は、月に1度入替を行い、季節に応じた図書や学習、読書、趣味に関する本を紹介している。「読み放題パック」「資格に挑戦」「音で楽しむ」「好きばい、くまもと」「えほんでむかしばなし」「歴史の本棚」「雨の日はゆっくり読書を」など（令和7年6月現在）
- ・読書支援サービスとしてデージー図書（10冊を定期的に入替）を読むことができる。また、音声読み上げ機能付き図書9,695冊を所蔵している。（令和7年5月末現在）
- ・独自資料として図書館講座で利用したテキストや八代市のガイドマップ、地元作家の図書をデータ化し公開している。
- ・図書館の便利な使い方講座にて、電子図書館の使い方を周知している。

（報告2）八代市立図書館本館 修繕

- ・南側スロープ 滑り止め張替修繕（5年計画の1年目）、空調システムの部品交換、ガス遮断弁撤去工事（建設当時のもので現在は不要、地震が起きた時に遮断弁が下りてしまうと自動復旧が出来ない）、南側ベンチ修繕（森林関係贈与税を利用）などを行った。

委員：松高校区にて夏休みにふれあい教室をしている。そのときに読み聞かせを頼んでもよいか。

事務局：図書館に直接依頼を頂ければ可能。他の校区からもご要望があればできる限りの対応はしたい。

【2】令和7年度事業計画について

事務局：令和7年度事業計画についてお伝えする。

（提案1）令和7年度事業計画について

1.郷土を拓く人を育む図書館

（1）課題解決に取り組む市民の読書活動の推進

八代市立図書館を活用し、子どもたちが自ら学び考え、課題を解決する力や生きる力を育むことを目的とした「第9回八代市立図書館を使った調べる学習コンクール」を開催する。教

育関係機関への広報を積極的に行い、調べる学習講座を開催するなどフォロー体制を強化する。

(2) 情報化社会の進展に合った情報提供の充実

電子図書館では児童生徒の読書活動の普及のため、アクセス回数に制限のない児童書、YA世代（小学高学年～高校生）向けの図書の購入を行う。また、商用データベースの見直しを行い、情報化社会の進展に合った情報提供に努める。定期的に図書館の便利な使い方講座を開催し、図書館サービスの周知を図る。また、総合窓口にてレファレンスサービス（調査・研究のための資料探しや、必要な情報の探し方をお知らせし、調べ物をお手伝いするサービス）を継続して行い、市民の調べ物等に対応する。

(3) 子どもの読書活動の推進

子ども読書活動推進計画を踏まえ、ブックスタート事業、定期的なおはなし会、図書館講座を継続するとともに、学校教育科目のフォロー体制を敷いた出前講座や団体貸出配本を実施する。

2.市民のニーズに応える図書館

(1) ユニバーサルデザインの視点を踏まえた環境整備やアクセシブルな資料の充実

視覚障がい等により活字での読書が困難な利用者に対して、アクセシブルな書籍の収集及び提供を継続して行い、読書支援サービスの普及に努める。「りんごの棚」（紙に印刷された資料だけでなく、さまざまな形態の資料や読書を支援するための道具を設置した書架）を活用し、読書支援サービスに努める。

(2) 外国語資料の充実

英語でのおはなし会やイベント継続して行うとともに、外国語資料の収集及び提供を継続して行う。また、英語以外の外国語資料を電子図書を含め拡充を行う。

(3) 地域における読書活動の充実

令和6年度より移動図書館の車両と愛称が変わり、移動図書館「わくわく号」となった。市の広報紙や回覧板を活用しての広報を行うと共に、図書館外のイベントへの参加を行い周知を図る。

(4) 定住自立圏協定による広域連携サービスの実施

八火図書館（氷川町）、芦北町立図書館と連携し、図書館資料の共有を行うことで、図書館資料の有効活用、新規利用者の拡充、利用者の利便性の向上を図っていく。

(5) 県立図書館をはじめとした他自治体図書館との連携

縣市等連携事業や相互貸借を継続して行い、幅広い市民のニーズに応える。

(6) 図書館の施設整備

優先順位をつけ、計画的に整備を行っていく。

(7) 指定管理者による運営

連携を図りながら、より高度で効率的な図書館サービスの提供を行っていく。

3.八代の文化を支える図書館

(1) 文化創造機会の提供

幅広い世代を対象とした図書館講座を毎月開催し、市民の文化創造の機会を提供する。今後も積極的に地元企業や団体と連携を行う。

(2) 各館ごとの特色あるサービスの提供

教育機関、各種施設、市民団体等と連携した展示コーナーやイベントを積極的に行い、郷土八代の魅力を発信する。本館の開館 40 周年記念行事として「平田昌広えほんライブ」を開催する。また、記念展示も行い、市民へ感謝を伝えるとともに更なる図書館利用に繋げる。

4.市民協働による図書館

(1) 学校との連携強化、協働による事業の充実

教育機関や施設、地域の団体との連携を行い、展示やおはなし会等のイベントを開催する。また、学校教育科目のフォロー体制を敷いた出前講座や団体貸出の配本を行う。

(2) 地域施設・ボランティアとの連携・協働による読書推進

読書グループ連絡協議会を開催し、ボランティアと図書館の連携を強化する。

(3) 自主事業への市民参加

子ども読書週間に合わせ「春の図書館まつり」、秋の読書週間に合わせて「秋の図書館まつり」を開催する。また、令和 8 年 2 月頃に「としょかんマルシェ」を開催し、図書館の利用促進に繋げる。

(4) 図書館運営への市民参加

市民の方々や有識者の意見を図書館運営に反映するため、図書館協議会を適宜開催し、透明性の確保及び図書館サービスの向上を図っていく。また、利用者アンケート調査にて、広く意見を求め図書館運営に反映させる。

(提案 2) 令和 7 年度事業計画について (修繕等)

- ・本館の修繕計画として、中央監視装置 監視用 PC の更新、南側スロープ 滑り止め張替修繕 (2 年目) がある。
- ・本館にて、森林関係贈与税を利用しパソコンが使用できるコンセント付き学習機の購入を検討中。
- ・図書館システムの更新 (令和 8 年 2 月 1 日～) を行う。受託業者選定委員会を行い、システム開発会社を決定し、リース業者を入札で決定する予定。

委員：利用者から、この本を購入したいなど求められたことはあるか。

事務局：図書館で本の売買はできないので、図書館内で読むか借りるかをしてほしい。購入したいという要望の利用者にも同じようにお答えし、納得していただいている。

委員：リクエストやレファレンスはどの年代の利用が多いのか。また、どのようなジャンルの調べ物が多いのか

事務局：本館にて利用者の年代として多いのが 60 代～70 代の方。レファレンス内容は郷土の

事を聞かれることが多い。例えば、かがみ図書館では鏡の特定の地域ことを調べたいというレファレンスが多い。

委員：40周年記念行事はいつごろ開催予定か。ほかにイベントで考えていることはあるか。広報はどうするのか。

事務局：6月8日に八代市立図書館本館が40周年を迎えている。その日にロビーに花を飾り、写真を撮ってSNSにて広報した。メインイベントである「平田昌広えほんライブ」は11月1日を予定。9月末に申込も併せて広報開始する予定。定員は50名。なるべくたくさんの方に見ていただけるように机と椅子をなくし、畳を敷く予定。ライブの後には地元書店による作家の絵本の販売、及びサイン会を行う。他に八代市立図書館の歴史年表の展示を考えている。秋の図書館まつりとも合わせて他にもイベントを考えている。決まり次第、告知・広報を行う。

委員：「平田昌広えほんライブ」を市報に大きく載せていただくことはできないか。

事務局：広報課に相談する。

委員：図書館行事の費用対効果はどうだろうか。

事務局：図書館は教育施設のため、すべてにおいて無料で提供している。入館者数や電子図書館利用を踏まえると幅広い方が利用しており、効果は上がっているのではと考える。

委員：電子図書館の活用が下がっている。学校からも使い方を教えるなどPRが必要だと考える。中学校、高校など図書館に行くことが少ない子どもを対象に電子図書館の活用を呼び掛けていくことも必要だと思う。

委員：学校の先生へ向けて、授業に関連する図書や教科書に掲載されている作家の図書等を図書館でも貸出が出来ることを伝えていくのはどうか。

事務局：図書館から学校へ向けて、読書支援のチラシを毎年配布しているが周知が足りないように感じる。校長会等も活用し広報していく。図書館をよく利用される学校や先生からはこの単元の本を集めてほしいという要望はある。しかし、どの学校も同じ時期に同じ単元をするため、図書館側で冊数の制限をすることもある。どの学校にもどの学年にも利用していただけるように広報していく。

委員：図書館の活用や電子図書館の活用等、様々な年代の方に届くように、市報でも広報できたらいい。

委員：自身が所属する子羊文庫では、おはなし会の案内を図書館でも広報させて頂いている。コロナで参加人数が減り、コロナ後も参加者が戻ってくるか心配だったが、最近父親と一緒に参加することも増え、若い父親の参加率が上がっているように感じる。以前よりも家族連れや子どもを図書館で見かけることが増えた。図書館の利用方法について、これからは楽しみに思う。

7,その他

事務局：

1.第9回八代市立図書館を使った調べる学習コンクールを開催

調べる学習おたすけ講座の申込・広報が6月26日より開始。学校にも広報していく。

2.相互貸借について

相互貸借とは利用者よりリクエストいただいた図書のうち、図書館での購入が難しい場合、所蔵している図書館より借り受けし利用者へ提供するというサービス。県内の図書館を中心に探す但県内に所蔵のある図書館がない場合、県外の図書館も探している。

八代市では借受・返却の費用を図書館が負担しており、利用者負担がない。そのため、利用者より相互貸借の希望をされたが、借り受け後に「もう必要ないから」とキャンセルされる問題が出てきている。相互貸借について規定がないため、今後規定を定めて運用していきたいと考えている。運営方針等が決まったら次回の協議会にてお伝えする。

8,閉会